

2022

# 仕掛け絵本

Pop up Book

AD 27 原田 麻美  
指導教員 井上 謙

## 1. 研究目的

ここ数年、メディアで仕掛け絵本の特集をよく目にするようになり、少しずつ仕掛け絵本のカテゴリーが確立されてきたように感じる。しかしながら、大人と子どもでは絵本そのものの読み方、理解の仕方が大きく異なる。

そこで大人と子どもが同じように楽しむ、考えを共有できる絵本を作ることを本卒業研究の目的とする。

## 2. 調査と分析

- ・都内にある大手書店で調査したところ、絵本コーナーにおける仕掛け絵本（飛び出す絵本）の需要は年代に関係なく高い。
- ・大人と子どもでは絵本の内容の理解の仕方に大きな差がある。大人は絵本の道筋の理解を文章に頼る傾向が強いが、まだ字を読む事の出来ない子どもは絵から内容を読み取り想像し、物語を作り、その絵本の内容を自分なりに理解しようと努める。
- ・絵本とは「絵」と「文章」を用いて情報伝達をするが、仕掛けを加える事により、通常の絵本だけでは得られない記憶に残るような「インパクトの強さ」、絵だけでも話の筋道が伝わる「わかりやすさ」、何度も見返したくなる「ユニークさ」を得られる。

## 3. コンセプトの立案

- ・何度見ても楽しめる  
初めて読んでから時間が経ち、改めて読み返した時にも、初めて読んだ時と同じような気持ちになつてもらいたい。そのために仕掛けという表現方法を選択。
- ・大人も子どもも同じように楽しめるもの  
大人と子どもでは、情報の受け取り方が異なっている。その違いをなくすことができるような絵本の製作。

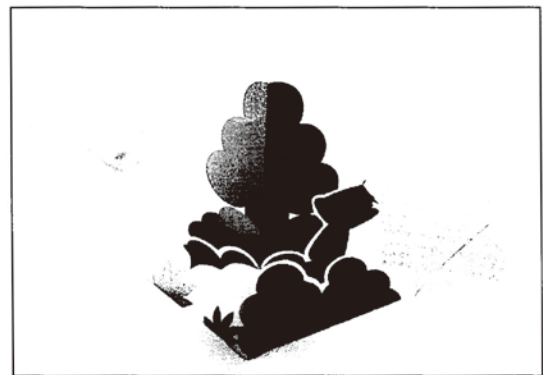
## 4. デザイン展開

- ・ストーリーは小学校低学年向けの詩を用いた。全五連での構成と短く、物語の内容も単純明快で、一読してすぐ理解できる。客観的に進んでいく詩なので、読み手が様々な視点からストーリーを考えられるようなレイアウトを展開する。
- ・大人にも、文章に頼らず自分だけのストーリーを想像して欲しいとの思いから、仕掛けの入ったページ

には一切文章を記載せず、最終ページに全文を配置する。

- ・登場するキャラクターの行動や心の変化を仕掛けだけに頼るのではなく、背景の配置や色の変化でも表現してゆく。

## 5. 完成図



## 6. 結論

- ・メインキャラクターの心の変化を仕掛けや紙面上に反映させるため、ページごとにレイアウトや色調を微妙に変化させた。それにより、文章を読まずに内容の筋道を理解するという「わかりやすさ」は達成できた。
- ・原作とは異なる様々な視点から物語を想像できるようにと、オリジナルのキャラクターを随所に配置することにより、仕掛けとしてだけでない「ユニークさ」を表現できた。
- ・大掛かりな仕掛けは作りが複雑なため、既製品のような仕掛け絵本ならではの「インパクトの強さ」というのが表現しきれなかった。
- ・仕掛けを踏まえた構成は難しく、限られたスペースの中で、見やすくかつスムーズに仕掛けを作動させる為の研究を今後も続ける必要がある。

## 7. 参考文献

- ・『実物で学ぶしかけ絵本の基礎知識ポップアップ』  
出版：大日本絵画  
著：D・A・カーター, J・ダインズ
- ・『絵本のしくみを考える』  
出版：日本エディターズスクール出版部  
著：藤本朝巳